

要保管

180 Degree
E-TRANCLE
電動アシスト自転車
取扱説明書



- この度はお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- この商品を正しく安全に使用していただくために、お使いになる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに大切に保管し、必要なときにお読みください。

目 次

はじめに.....	2
安全上の注意.....	3~10
各部名称.....	11
組立手順.....	12~13
折りたたみ手順.....	14~15
充電の手順.....	16
バッテリー.....	17
L E D パネルと操作スイッチ.....	18
点検・整備項目.....	19
故障かな?と思ったら.....	20
製品仕様.....	21

はじめに

この電動アシスト自転車取扱説明書では、E-TRANCLEの取扱い方法を説明しています。

この取扱説明書をよく読み、内容を理解した上で正しくご使用ください。自転車のご利用にあたっては同梱の取扱説明書（保証書）を必ずお読みください。

電動アシスト自転車取扱説明書／取扱説明書（保証書）はお読みになった後も大切に保管してください。

- 製品の仕様変更などにより、本書に記載のイラストや内容が実際の製品と多少異なる場合があります。
- この取扱説明書の記載内容については、予告なしに変更することがあります。
- 本製品を贈呈や貸与する場合は、本書及び購入時に添付されていた書類一式を必ず製品に添付してください。

安全上のご注意



バッテリー / 充電アダプター / コード・プラグについて

1. 充電する際は自転車のアシスト電源のスイッチを切ってください。
2. 充電中は充電器の上に物を置かないでください。
3. 残量の少ない時は早めに充電を行ってください。
4. **充電完了後（緑色点灯）は AC 電源プラグを抜いてから、バッテリー側のプラグを抜いてください。**
5. 充電器は必ず付属のものをご使用ください。
（他の充電器を使用するとバッテリー破損の要因となり危険です。）
6. バッテリーのケース、充電アダプター、コード・プラグが傷んだものは使用しないでください。
7. 電動アシスト自転車をご使用になられた直後は、すぐに充電しないでください。
（バッテリー本体が発熱している状態で充電されますとバッテリーの寿命を減らすだけでなく、膨張発火の原因となります。
バッテリーを 30 分以上放置し、冷却を行った後に充電するようにしてください。）
8. 充電器に衝撃を与えるような落下、また、水濡れや高温多湿な場所での保管を避けてください。
9. 保管場所は 5℃から 35℃内で、塵やほこりが少なく、雨つゆや直射日光の当たらない箇所で保管してください。
10. 幼児など取扱に不慣れな方だけで使わせたり、乳幼児の手の届くところでは使用しないでください。
11. 電源プラグや充電プラグを濡れた手で触れないでください。
12. 充電口には金属物が触れないようご注意ください。
13. 電源プラグのほこりや油等は定期的に取り除いてください。
14. バッテリーは重量がありますので、お取り扱いにご注意ください。
15. バッテリーの充電は（平均）約 4 時間となります。
（充電が完了しない、バッテリーが過度に発熱するなどの異常※ がみられましたら、すぐに充電器をコンセントから外して販売店にお問い合わせください。）
※充電時は若干熱を帯びます。
16. 充電中はバッテリーやアダプターに皮膚が長時間触れないようにしてください。
17. 極度に暑い、または寒い環境ではバッテリー性能が低下します。
（特に冬期では、バッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。）
18. 30 日以上使用しない場合は一度完全に充電し、別途保管してください。
19. バッテリーは使用してなくても、少しずつ自然放電しますので、2 ヶ月程度ごとに完全に充電してください。
電池自体が過放電してしまうとバッテリーが損傷する恐れがあります。この場合保証はききません。
20. 満充電のバッテリーを繰り返し充電すると劣化が早くなります。
21. バッテリーを火中に入れたり、高所から落としたりしないでください。
22. 端子部を手で直接に触れたり、金属片等が接触しないようにしてください。
23. バッテリーの分解、水に浸したり、電池をショートさせないようにご注意ください。
これらの損傷は保証対象外となります。
24. お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコール、みがき粉等は使用しないでください。
25. バッテリーはお子様の手の届かないところに保管してください。
26. バッテリーは資源有効利用促進法に基づきリサイクルが義務付けられています。
バッテリーを廃棄する際は、各自治体にご確認いただき指示に従ってください。

万一、バッテリーから液が漏れた場合、以下の注意事項をお守りください。

- 皮膚や衣服につけないように注意する。
- 目に入った場合は直ちにきれいな水で洗い流し、医師の治療を受ける。
- 皮膚についた場合は直ちにきれいな水で洗い流し、医師の治療を受ける。

安全上のご注意



アシスト自転車について

1. 安全のため、ヘルメットを着用してください。
また車輪に巻き込まれる可能性のある服装や、滑りやすい靴、かかとの高い靴などはさけてください。
2. 電源を入れたまま駐車、自転車の押し歩きをしないようご注意ください。
3. 乗車前には各部の点検を必ず行ってください。
バッテリーが確実に固定されている事を確認の上で乗車ください。
4. 「蹴り乗り（けんけん乗り）」は絶対にしないでください。必ずサドルにまたがりハンドルをしっかりと握ってから発進してください。
5. 自転車を乗り入れても良い公園や広場など安全な場所でよく練習し、アシストの特徴に充分慣れてから一般道路でお乗りください。
6. 発進時はペダルを強く踏み込みすぎないようにご注意ください。（思わぬ急発進によりバランスを崩すと危険です。）
7. 停車中は前後ブレーキをかけたままにし、ペダルに足を乗せないでください。
8. 前ブレーキだけを強くかけないようにご注意ください。
（車輪がロックし自転車が前方に倒れる恐れがあります。）
9. 急ブレーキ、急ハンドルはしないでください。雨天時や下り坂ではスピードをださないでください。
10. 深さ 15cm を超えた水には入らないでください。
11. 走行直後はアシストユニットに手を触れないでください。（走行直後はアシスト部が高温になっている事があります。）
12. 水に濡れた手でバッテリーや充電器には触れないでください。
13. 二人で乗らないでください。ハブステップを取り付けての乗車は大変危険です。
また二人乗りでご使用された形跡がみられる場合は保証対象外となりますのでご注意ください。
14. 傘をさしての走行、イヤホンを聞きながらの走行、片手運転や手放し運転はしないでください。
15. 飲酒時やかぜ薬を服用したとき、体調のすぐれないときは乗らないでください。
16. 夜間走行前にはバッテリーの残量を確認してください。
17. 定期的に消耗部品（ブレーキ等）を交換してください。
18. 交通ルールを守り並列運転や乱暴な運転はしないようご注意ください。
19. 高齢者のかたの事故が増えています。
商品のアシスト特性、重量等を十分に把握したうえでご使用ください。

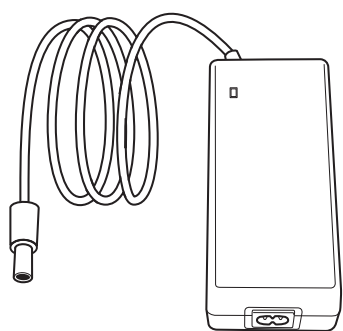
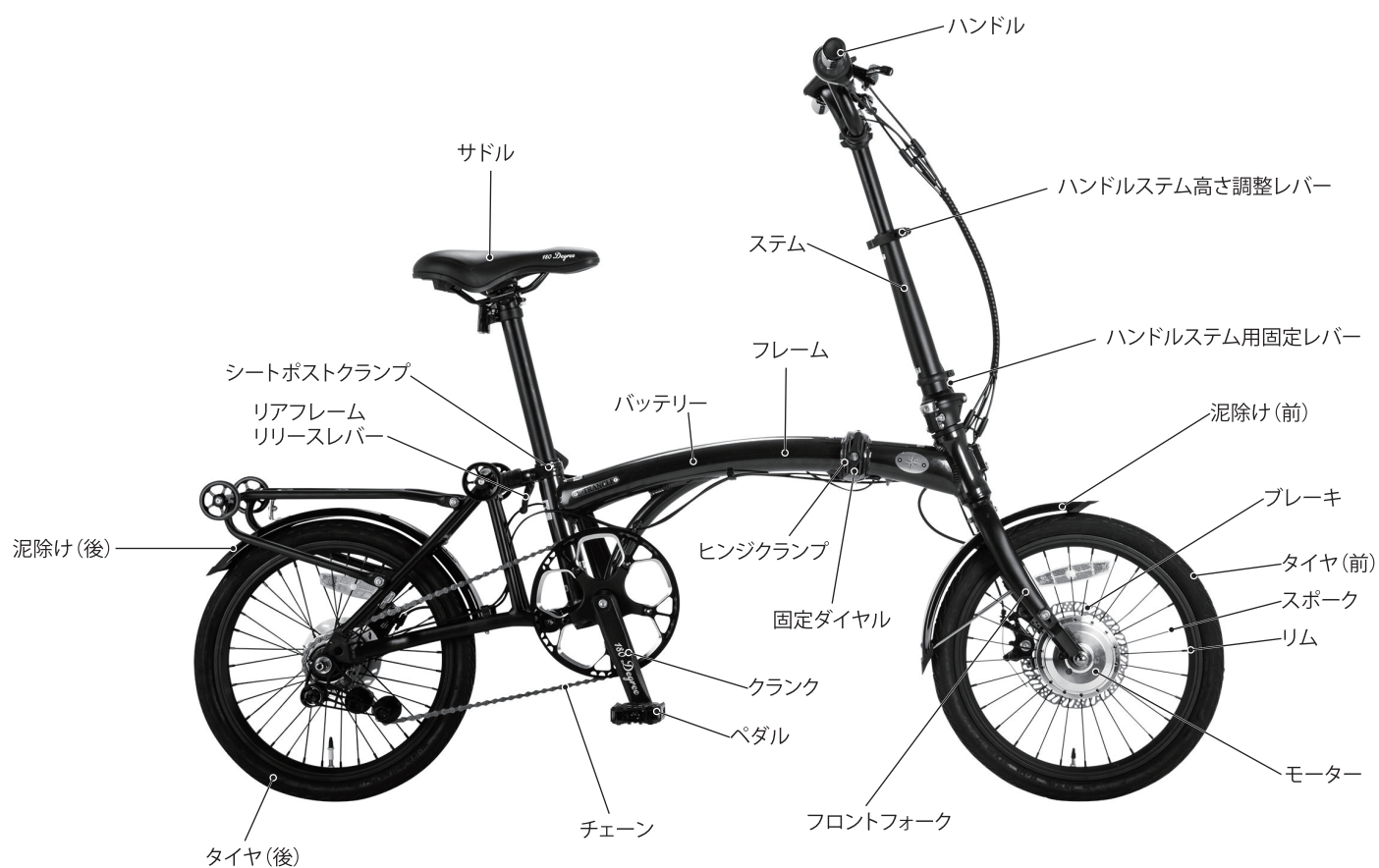
メンテナンスについて

1. 自転車を高温多湿な環境に保管しないでください。
2. 自転車は直射日光と雨の当たらない場所で保管してください。
3. 各部の固定がしっかりしている事を確認してからお乗りください。
4. ねじ、チェーン及び他の部品を定期的に確認してください。
5. ハンドルやシートポストの限界線にご注意ください。限界線を超えた状態での乗車は大変危険です。
6. 定期的にタイヤに空気を入れてください。仏式バルブの取扱については自転車共通取扱説明書 P8 を参照してください。
（空気圧が減った状態で走行すると、タイヤ、チューブの劣化、バッテリー消耗の原因となります。）
7. バッテリーや充電器を他の電気機器には使用しないでください。
8. いつまでも安全にお乗りいただくため、お買い求めいただいてから6か月目以降は、半年ごとに定期点検をお受けください。
（定期点検は有料となります。）

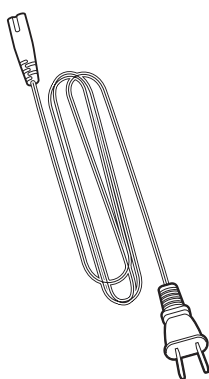
他の注意事項について

1. お子様はお使いにならないでください。本製品は大人用自転車となります。
2. 本書と保証書は紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
3. 他人にお譲りになる場合は、本書と保証書も一緒にお渡しください。

各部名称



充電アダプター



電源コード

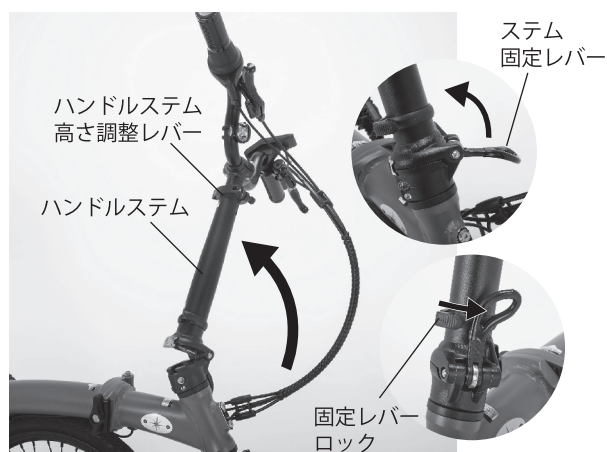


取扱説明書

組立手順

商品を箱から取り出し梱包材を外してください。

(保証対応や修理の際に箱は必要となりますので、すぐに箱や梱包材を処分しないようご注意ください。)



ハンドルステムを持ち上げ固定します。

1. 折りたたんだステムを一番上まで上げます。
2. ステム 固定レバーをしっかりと持ち上げロックします。
3. ステムがしっかりと固定されていることを確認します。
4. 固定レバーロックを矢印方向に回し、ロックします。

ステム固定レバーが完全に固定されていない状態で走行すると事故の危険があります。乗車前に完全に固定されていることを確認してください。

※状況に応じ高さ調整レバーを開きステムの高さを変更することが出来ます。調整後は必ず高さ調整レバーをしっかりと閉じてください。高さ限界線を超えて使用しないでください。

サドルを持ち上げ固定します。

1. シートポストクランプのロックを解除します。
2. サドルを引き上げます。

サドルが十分に上がっていない場合、シートポストの長さの関係で次のステップに進めない場合があります。※後輪部分のロックが外れません。

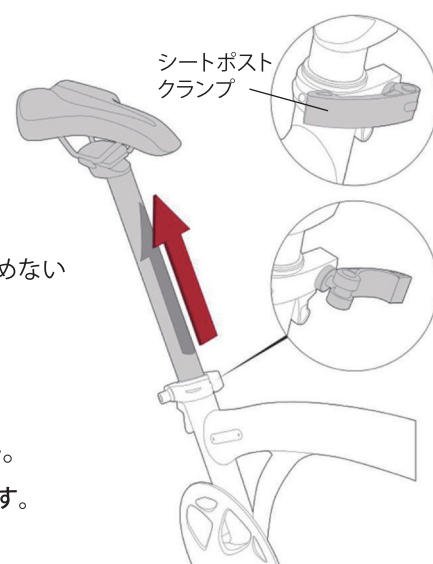
3. シートポストクランプをロックしてください。

※サドルは高さ限界線以上上げないでください。

4. シートポストクランプがしっかりとロックされているか確認してください。

シートポストクランプが完全に固定されていない状態で走行すると事故の危険があります。

乗車前に完全に固定されていることを確認してください。

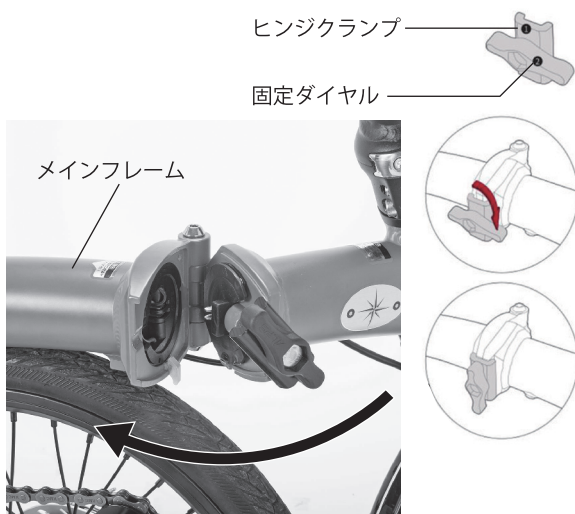


フォークフックの取り外し

1. 片手でサドルを持ち、もう一方の手でステムを持ちます。
2. 足でリアキャリア (荷台) を踏み動かないようにします。
3. ハンドルを少し後方に倒しながら、フォークに付いているフォーク固定フックをリアスイングアームから取り外します。

※取り外す前に必ずサドルを引き上げてください。後輪部分のロックが外れません。

組立手順



メインフレームを展開し固定します。

1. メインフレームを展開します。
2. ヒンジクランプの位置を合わせ、固定ダイヤルを時計回りにいっぱい回してロックします。

折りたたみ部分がメインフレームで完全に閉じられていることを確認してください。

ヒンジクランプが完全に固定されていない状態で乗車すると事故の危険があります。

乗車前に完全に固定されていることを確認してください。

注：前輪は常に前を向いている必要があります。

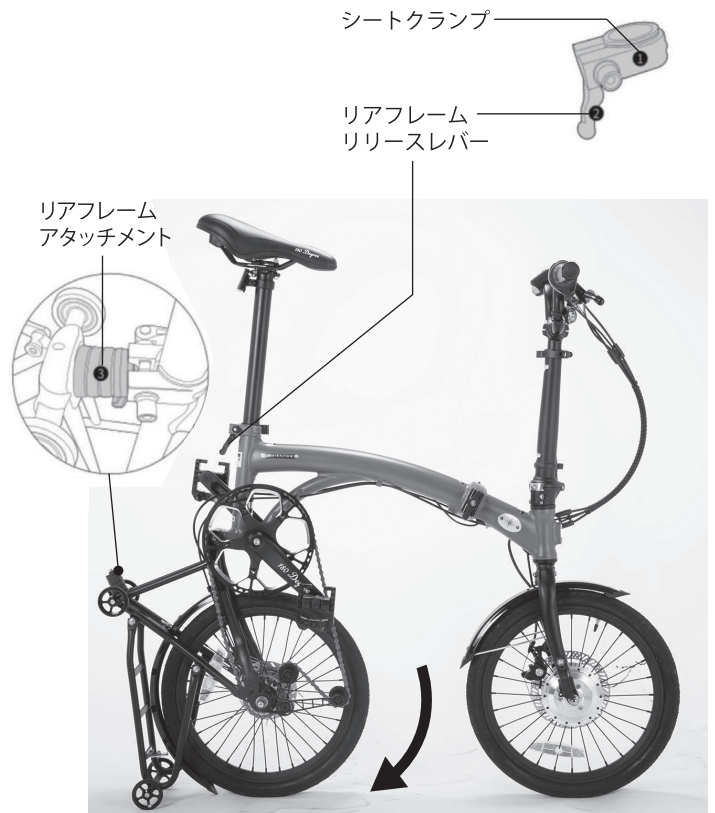
リアフレームを展開し固定します。

1. サドルを少し持ち上げ、後輪が地面に触れるようにフレームを広げます。

シートポストが下がりきっていると、リアフレームは広がりません。最初にシートポストが完全に上がっていることを確認してから、リアフレームを伸ばします。

2. リアフレームをリアフレームアタッチメントに固定します。

所定の位置にロックされると、「カチッ」という音が聞こえます。リアフレームが固定されていない状態で持ち上げると、事故の危険があります。必ず十分に点検を行ってからお乗りください。



ペダルを立ち上げ展開します。

クランクに対して垂直になるよう引き上げると展開します。



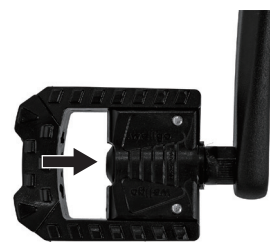
注意

乗車する際は、毎回 各固定レバーが確実にロックされている事を確認してください。

折りたたみ手順

ペダルを内側に折りたたみます。

左右のペダルをそれぞれ中心に向かい押し込み折りたたみます。



リアフレーム
リリースレバー



リアフレームを折りたたみます。

1. リアフレームリリースレバーを押しながらサドルを持ち本体を引き上げます。

リアフレームリリースレバーの取り扱いには手を挟む恐れがありますのでご注意ください。

2. リアフレームをメインフレームの下に折りたたみます。

シートポストを深く差し込んでいるとリアフレームは折りたたみできません。

必ず最初にシートポストをいっぱい引き上げてから折り畳んでください。

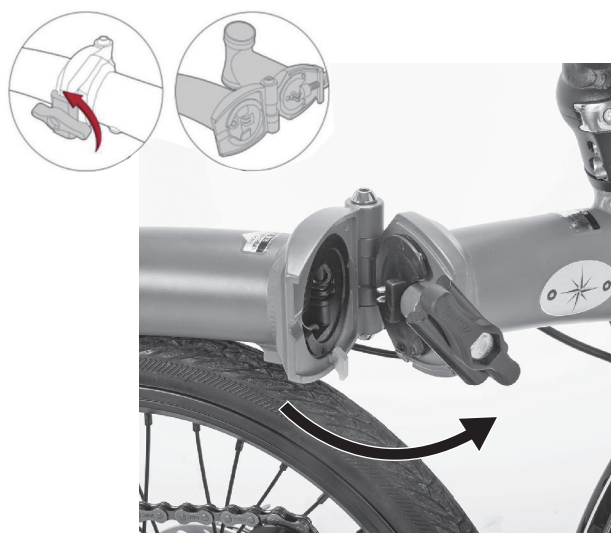
メインフレームを折りたたみます。

1. 固定ダイヤルを反時計回りに回して緩めます。
2. 本体フレームの前部を完全に後ろに折りたたみます。

※折りたたむ際は手を挟む恐れがありますのでご注意ください。前輪は必ず前方を向けてください。

※後ろ向きだと次のステップに進めませんのでご注意ください

ヒンジクランプ —
固定ダイヤル —



折りたたみ手順

前後部を固定します

1. 片手でサドルを持ち、もう一方の手でステムを持ちます。
2. 足でリアキャリア（荷台）を踏み動かないようにします。
3. ハンドルバーを持ち前フォークを後輪に側に近づけながら、フォークに付いているフォーク固定フックをチェーンステーに固定します。

注意：折りたたみ時は手を挟まないよう注意してください。

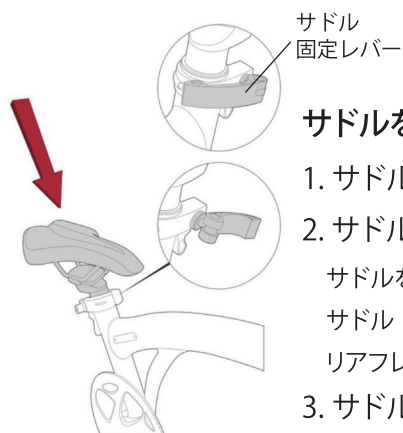
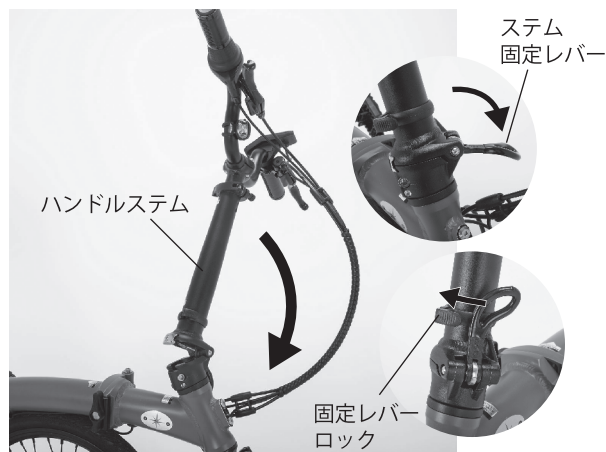
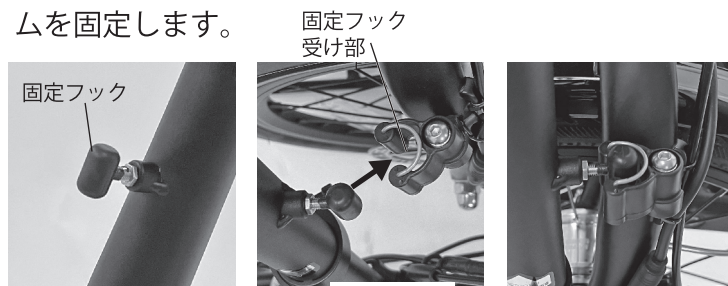


ハンドルステムを折りたたみます

1. 固定レバーロックを矢印方向に回し、ステム固定レバーを最後まで開きます。
2. ハンドルステムを最後まで下に折ります。

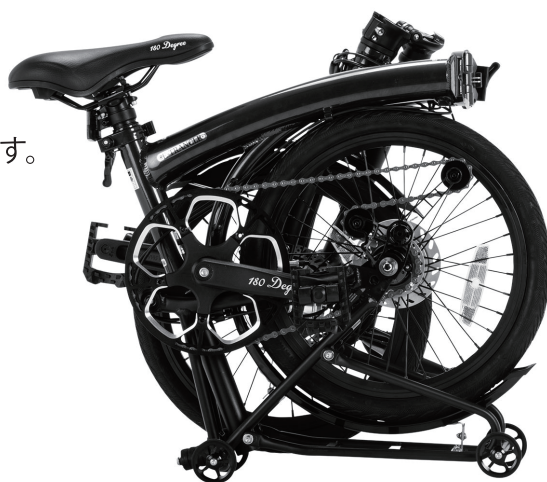
折りたたむ際に手を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

3. ハンドルステム側面の固定フックをフロントフォーク側面の固定フック受け部にはめ込みハンドルステムを固定します。



サドルを収納します。

1. サドル固定レバーを開きます。
2. サドル（シートポスト）を最後まで下げます。
サドルを下げることでリアフレームをロックします。
サドル（シートポスト）が十分に下がっていないと、リアフレームが開いてしまう場合があります。
3. サドル固定レバーをロックしてください。



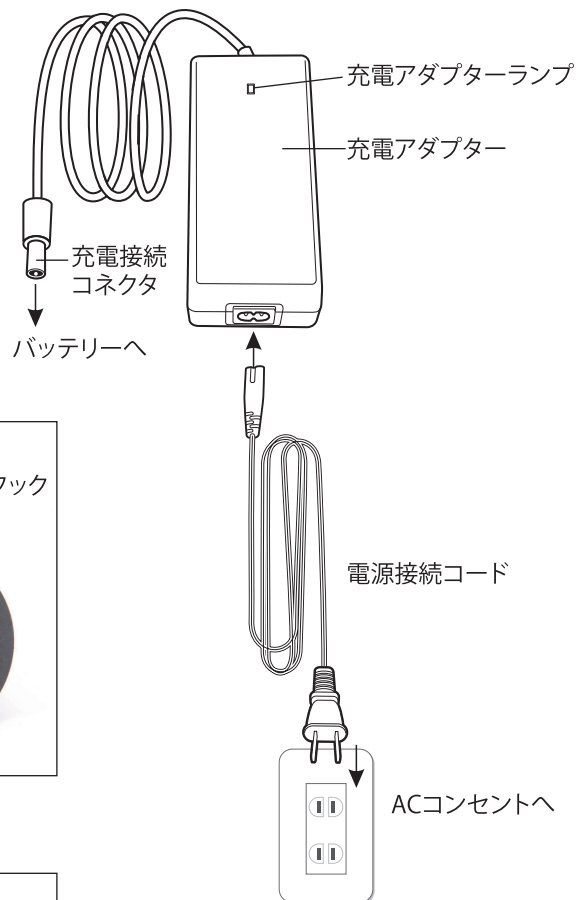
充電の手順

1. バッテリーの取り出し

バッテリーはメインフレームの中にあります。前項 (P14) を参考にメインフレームを開き、バッテリーロックを指で引き下げながらバッテリーの引き出しフックをつまみ、取り出してください。

※メインフレームを開放すると、自転車が不安定になり転倒する恐れがあります。必ず前もってリアフレームを折りたたんでから作業してください。

2. 充電アダプターと電源コードの接続



3. バッテリーとの接続と充電



バッテリーの充電接続コネクタ差込口に充電アダプターの充電接続コネクタを差し込みます。

電源プラグを AC コンセントに差し込みます。
充電が開始されると充電アダプターのランプが赤色に点灯します。充電が完了したら緑色の点灯に変わります。



バッテリー



注 意

1回の充電でアシスト走行できる距離は道路の状態、走り方、気温、荷物の有無などの走行状況に左右されます。
冷えた状態ですと、走行距離が大幅に減少します。
発進、停止の回数が多い。急な坂道が多い。路面状況が悪い。積載重量が重い。向かい風が強い。バッテリーが劣化している。
上記のような条件により走行状態は変化します。
気温が5度以下になるような野外に電動自転車を駐輪する場合、
バッテリーは取り外して室内で保管してください。
走行直後のバッテリーは温度が上がっています。走行直後はアシストユニットに手を触れないでください。
走行直後の充電は、高温状態からバッテリーを保護するため、充電を途中で終了する仕組みになっています。
冬でも夏でも、常温(20℃～25℃)の環境で充電・保管されることをお勧めします。
走行中に異音が発生したり異常だと思ったら、ただちに使用を中止してください。
必ず平らな場所に駐輪してください。
高齢者のかたの事故が増えています。本製品のアシスト特性、重量等を十分に把握したうえでご使用ください。

バッテリー交換の目安

■バッテリー交換は有料です。

バッテリーの交換時期の目安は、使用状況、充電のしかたなどにより異なりますが
満充電後の走行距離が新品時より、著しく短く(約半部以下)になった時が交換時期です。



注 意

バッテリーには
寿命があります。

■バッテリー交換時期の目安

バッテリー交換時期の目安は、約500回の充電／放電で使用期間はおよそ1年半前後が目安です。
ご使用や保管の状況等により、500回未満の場合でも寿命(新品時の約半分以下)になる場合もあります。

- A) 冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなります。また、ペダルを強く踏み込んだ状態で走行する機会が多かったり、高温になる
駐車場でバッテリーを保管すると通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。
- B) バッテリーの劣化を抑えるため、最低2ヵ月に一度は充電を行ってください。
- C) バッテリー残量がない状態での長期保管は、早期劣化の原因となります。
- D) バッテリー残量表示ボタンを押した時にLEDランプが点灯しない場合は充電をしてください。再充電ができない場合はバッテリーが劣化し
寿命となる可能性があります。
- E) 長期間保管後に再使用する場合、予めバッテリー残量を確認し、不足している場合は必ず充電してからご使用ください。

リチウムイオン電池のリサイクルについて



- この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。
リチウムイオン電池またはこの商品を廃棄する場合はリチウムイオン電池を取り外して販売店または、
リサイクル協力店へお持ちください。
環境保護と資源の有効活用をはかるため、電池の回収にご協力ください。

電池のリサイクルについて

- この商品に搭載している電池はリチウムイオンバッテリーです。この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。

リサイクル協力店について

- 充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

<http://www.jbrc.com/>

LED パネルと操作スイッチ



+ボタン / -ボタン

1から5、5から1とボタンを押す毎に一つずつ切り替わります。

5が最もアシスト力が強いモードです。



注意

バッテリーの電源をONにする際の注意事項

ペダルに足を乗せた状態で、バッテリーのスイッチをONにしないでください。
ペダルに足を乗せた状態でスイッチをONにすると、
飛び出し防止の安全機構が働き、アシストが効かない状態となります。
アシストが効かなくなった場合は、一旦降車し電源をOFFにしてください。
降車した状態で、バッテリーのスイッチをONにしてから乗車してください。

点検・整備項目



以下の点検項目を参考にして、定期的に点検を行ってください。
 自転車本体の点検項目については、自転車共通取扱説明書 P52.
 「点検・チェックリスト」をご参照ください。



異常を感じた場合は定期点検と関係なく、販売店で点検を受けてください。

点検項目		点検期間						
		1 回目	2 回目	3 回目	4 回目	5 回目	6 回目	7 回目
		2 ヶ月	6 ヶ月	1 年	1 年半	2 年	2 年半	3 年
1	アシスト機能は正常に作動するか 異音がしないか							
2	モーターからグリス漏れがないか							
3	電気配線の接続部にゆるみ 損傷がないか							
4	コードの断線がないか フレームへの取付は適切か							
5	バッテリーの取付け状態は確実か							
6	表示ランプは点灯するか 異常を表示していないか							
7	バッテリーの消耗が早くなっていないか							

故障かな？と思ったら

こんなときは	ご確認ください	対処方法
電源が入らない	充電されていますか？	バッテリーを充電してください。 (P. 16「充電の手順」参照)
電源は入るが、モーターが動かない（液晶パネルは表示されて、バッテリーの残量も十分であることが表示されている）	ブレーキをかけていませんか？	発進時はブレーキをかけないでください。ブレーキレバーがしっかりと戻っていることを確認してください。
	バッテリー接続コネクタが正しく接続されていますか？	バッテリー接続コネクタが確実に接続されていることを確認してください。 (P. 16「充電の手順」参照)
バッテリーが満充電状態ではないのに充電ができない	バッテリーと充電アダプターが正しくセットされていますか？	バッテリーから充電接続コネクタを、充電アダプターから電源コードを一旦抜いて、もう一度各コネクタ / コードを接続しなおしてください。(P. 16「充電の手順」参照)
	バッテリーが完全放電している	充電が開始してもすぐに満充電表示（緑色ランプ）がされる場合は完全充電の可能性があります。ご購入された販売店までお問合せください。
走行距離が短い	充電されていますか？	バッテリーを充電してください。 (P. 16「充電の手順」参照)
	バッテリーを長期間使用せずに放置していませんか？	充電が完了したバッテリーでも長期間使用しなかった場合には自然に放電してしまうため、残量がなくなっていることがあります。
	坂道の連続走行や、悪路などの過酷な走行をしませんでしたか？	道路条件や変速位置等により走行距離が短くなります。
	気温は低くないですか？	冬季や寒冷地においてはバッテリーが冷えているため、バッテリーの特性上、容量が低下したり、走行距離が短くなります。
	気温は高くないですか？	高温で放置した場合は、バッテリーの残量が減少することがあります。
	使い込んだバッテリーを使用していませんか？	バッテリーの寿命と思われます。新しいバッテリーをご購入いただき、交換してください。

製品仕様

商品名称	180Degree E-TRANCLE
フレーム材質	アルミ
サイズ(横×高さ×幅)	1520×1000-1160×570 mm
折りたたみ時(横×高さ×幅)	1170×1000×570mm(キャリー`後輪収納、サイズ) 720×640×440mm
サドルの高さ(地上より)	740-960mm
重量	17.40kg
タイヤサイズ	16インチ (16×1 3/8) 仏式バルブ (英式変換バルブ付き)
変速	内装 5 段変速
ブレーキ	前／ディスクブレーキ 後／ローラーブレーキ
ブレーキレバーの材質	アルミ
ハンドルバーの材質	アルミ
ハンドルポストの材質	アルミ
リムの材質	アルミ
シートポストの材質	アルミ
シートポスト径	φ33.9
泥除けの材質	ポリカーボネイト
アシストモード	1 低 / 2 / 3 / 4 / 5 高 (5段階)
走行距離	モード1 (低) 約80km
補助範囲	比例補助 0-10km/h 未満
	逡減補助 10-24km/h 未満
モーター定格出力	350W
バッテリー種別	リチウムイオンバッテリー
バッテリー定格出力電圧	36V
バッテリー容量	6.8Ah
バッテリー寿命	約500回 ※使用条件により異なります。
充電時間	約4時間
電源	AC 100V - 240V 50/60Hz
消費電力	245Wh
充電器定格出力電圧	36V2A DC2.1
駆動補助機付自転車 型式認定番号	交A22-43
普通自転車型式認定番号	交A22-45

安全上のご注意

警告



山岳・河川などでは絶対に使用しない

ハンドル・フレームなどが折損したり、ブレーキが効かなくなったりして、転倒の恐れがあります。



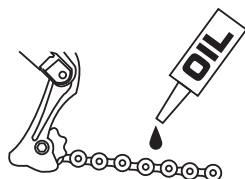
二人以上で乗ったりアクロバットの様な乗り方はしない

二人乗りは法律で禁止されています。またアクロバットの様な乗り方やハブステップに乗るのは大変危険ですので絶対にやめましょう。



チェーンなどの注油の必要な箇所には必ず注油すること

※注油箇所については
自転車共通取扱説明書
P43 参照



乗車中は携帯電話使用禁止!

スマホを操作したり、画面を注視しながらや、ヘッドホン・イヤホンを使用しての走行はやめましょう。周りの音が聞こえにくく大変危険です。



パンクした状態で乗らない

パンクした状態で自転車に乗ると、リムやスポークが変形したり、タイヤが外れて大変危険です。



飲酒しているときは絶対に乗らない

衝突や転倒など事故やケガの恐れがあります。



無灯火で乗らない

夜間、乗車の際は必ずヘッドランプを点灯してください。ヘッドランプの明かりは路面状態を見るのみでなく、他の車両や歩行者からの視認をしやすい効果があります。

- ヘッドランプが標準装備されていない機種には別売のヘッドランプを必ず装着してください。
- ランプがつかないときは、押して歩いてください。
- ランプが破損した場合は、すぐ交換してください。



走行中ブレーキワイヤーを引っばったり、曲げたりしない。

走行中にブレーキがかかることがあり、大変危険です。

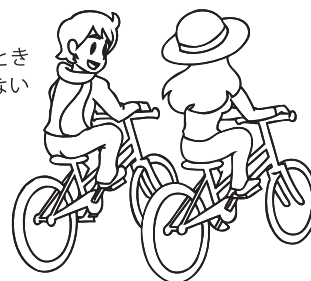


歩行者に危害を及ぼす恐れのある突起物などを自転車に取り付けしてはいけません。



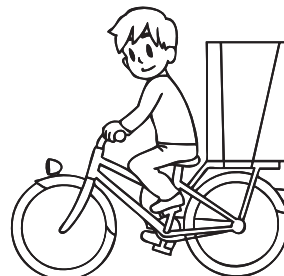
並走の禁止

二台以上で走行するときは、横に並走して走らないでください。



積載条件を超える荷物は積まない

荷物を積む場合は規定の大きさ、重量を守って、ずれたり、ヒモがゆるんだりしないようにご注意ください。バランスを崩し、転倒の恐れがあります。



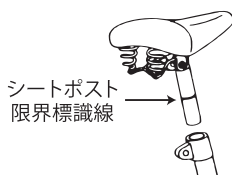
安全上のご注意

警告



シートポストの限界標識を越えての乗車をしない

シートポストの限界標識線がフレームの中に隠れる状態でお乗りください。サドルの折れや抜けにより転倒し、ケガをする恐れがあります。



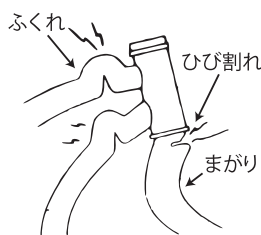
異常があるときは乗らない

点検せず異常のあるままでは走行すると事故や転倒によるケガの恐れがあります。

異常を発見したら販売店にご相談ください。変形、ひび割れなど、異常のある部品は必ず交換してください。

曲がりを直しての再使用は破損の原因になりますので、絶対にしないでください。

※衝突したとき前ホークが曲がることによりショックを吸収し、乗員のケガを防止する役目もっています。



リフレクターは汚れていたり破損したまま乗らない。 また取り外して乗らない。

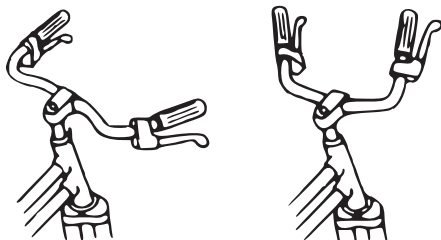
テールランプ及びリフレクターは後方の車両からの確認をする上で大変重要です。汚れや損傷のない状態でご使用ください。

破損した場合は、すぐに交換してください。交換するときは、橙色又は、赤色のものを使用し、反射面の傾きは進行方向垂直に対して上下左右5度未満になるようにしっかり固定してください。



ハンドルの形を変えない

ハンドルを上向きや前向きにて乗ると乗車姿勢が不自然なため走行が不安定になり、転倒しケガをする恐れがあります。



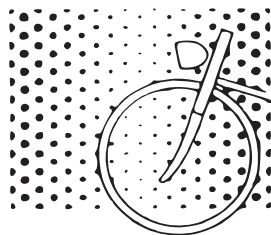
車輪の脱着やサドル・ハンドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない

車輪やサドル・ハンドルが外れ転倒によるケガの恐れがあります。



視界の悪いときは乗らない

見通しが悪いと、衝突や転倒の恐れがあります。(このような場合は押して歩いてください。)



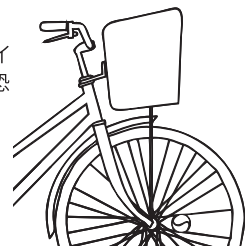
凹凸の激しい所を走らない

ハンドルがとられたりふらついたりする上、タイヤ・リムを損傷します。自転車を降りて押して歩いてください。



スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない

ボールが移動し、ブレーキ・ダイナモに接触し、転倒したりする恐れがあります。

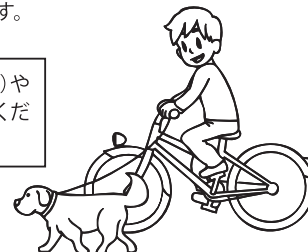


手やハンドルに荷物を引っ掛けたりペットをつなげない

荷物やヒモが車輪に巻き込まれたり、バランスを崩し転倒し、ケガの恐れがあります。



荷物はキャリア(荷台)やバスケットに積んでください。



安全上のご注意

警告



禁止

走行以外のことで使用しない

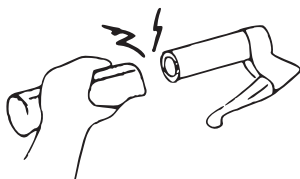
自転車を走行以外のこと(踏み台の代わりなど)に使用しないでください。転倒によるケガの恐れがあります。



禁止

ニギリのゆるんでいるものには乗らない

ニギリの弾性が低下し、回る物はハンドルから抜ける恐れがあり大変危険です。自転車販売店ですぐに取り替えてください。



禁止

自転車の改造をしない

修理や分解、部品の組み付けは、販売店にご相談ください。ハブステップの装着は危険な改造です。取扱説明書に記載されている調整箇所以外の箇所を調整することはやめてください。万一、不当な改造が起因と判断される故障は保障の対象外となります。
[保証規定B-30]



禁止

ブレーキの制動面に注油しない

ブレーキに関係する箇所のうち、ブレーキ、ブレーキディスク、ローラーブレーキのドラム内などには**絶対に注油したり油布で拭いたりしないでください**。ブレーキが効かなくなり大変危険です。



禁止

各部ベアリングを使用している箇所にグリス以外のものを塗らない

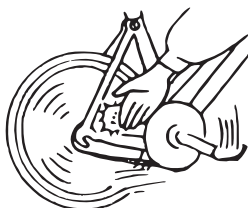
ベアリング使用箇所にスプレー式の潤滑油を吹き付けると、中のグリスが溶け出てベアリングのガタつきや破損が生じますので、絶対にしないでください。



禁止

回転部には触れない

(前・後車輪、ギヤクランク、チェーン部)が動いているときは手、足で触れないでください。特に調整やお子さまが遊んでいるときなどに回転部に手や足を触れないよう注意してください。



禁止

合図をするとき以外ハンドルから手を離さない

危険回避などの急な操作が出来ずに衝突や転倒の恐れがあります。雨のときに傘をさして片手運転などはしないでください。



禁止

傘やステッキ、釣竿などを車体に差し込んだり、吊り下げたりしない

車輪をロック(固定)させたり、歩行者にケガをさせる恐れがあります。



禁止

スピードを出し過ぎない

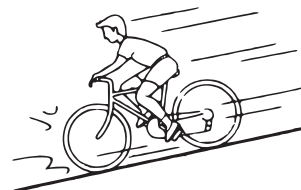
スピードを出し過ぎると、ハンドル操作が難しくなる上、ブレーキも効かなくなり事故を招く恐れがあります。



禁止

ぬれた道や下り坂ではスピードを出さない

ブレーキが効きにくく、スリップしやすいため思わぬ事故や転倒によるケガの恐れがあります。特に急な上り、下りは自転車を降りて押してください。



禁止

カーブではスピードを出さない

曲がりきれずに思わぬ事故を招く恐れがあります。



禁止

カーブではブレーキをかけない

横滑りをおこし転倒する危険があります。スピードを落として走りましょう。

警告



カーブで曲がる側のペダルを下げない
ペダルが地面に接触し、転倒する恐れがあります。



滑りやすいところでは乗らない

積雪や、凍結した道、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷きなどでの運転はスリップなどをして大変危険です。自転車を降りて押して歩いてください。



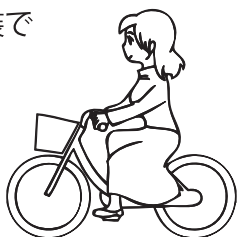
ギヤチェンジ(シフト操作)は一度に二段以上しない

一気にギヤチェンジをするとチェーンが外れることがあり大変危険です。
一段ずつチェンジしましょう。



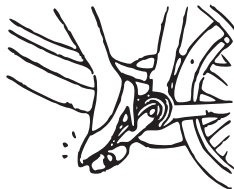
乗るときは安全な服装で

マフラーや裾の長いスカートなどの運転しにくい服装はやめてください。長いズボンをはいて乗車する場合は、車輪やギヤにからまることがあり危険です。



滑りやすい靴やかかとの高い靴などをはいて乗らない

足がペダルから外れ、転倒によるケガの恐れがあります。



片側ブレーキはかけない

片側だけ(特に前ブレーキ)のブレーキをかけるとバランスを崩して転倒し、ケガの恐れがあります。走行中は、常にブレーキレバーをすぐ握れるようにしてブレーキは前後ともかけてください。



急ブレーキはかけない

急ブレーキをかけるとスリップして転倒する危険があります。前方に注意して安全走行してください。



お子さまが乗られる場合は

ブレーキレバーに指が届いているかどうか確認してください。また、正しいブレーキのかけ方ができるまで繰り返し教えてください。



雨、強風、雪のとき

●雨のとき

服装(雨具)をととのえる。傘を持つての片手運転は絶対にやめてください。雨合羽やレインコートを着るときはスズが引っかかりたりしないようにスズは必ずセーフティバンド、輪ゴムまたは、クリップなどで必ずとめてください。また、雨の日はブレーキも効きにくくスリップしやすいので、ゆっくり走りましょう。

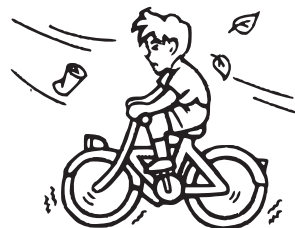
●強風のとき

ハンドルがふらつきやすく安全に運転出来ません。
無理に乗らずに降りて押して歩きましょう。

●雪のとき

雪の日には乗らないのが一番です。降りて押して歩くように心掛けましょう。また、冬の晴れた日でも日陰の路面が凍っていたり、雪が残っていたりしますので注意が必要です。

※状況により自転車は周囲から認識されにくいことがあります。常に「周囲から認識されやすい」服装や装備でご乗車ください。



一年ごと及び異常を感じた場合は販売店で、自転車安全整備士、自転車組立整備士、自転車技士もしくはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。



乗車前の確認

- 前ブレーキ及び後ブレーキの動作の確認
- ハンドル、サドル及び前輪、後輪の固定の確認
- タイヤの空気圧の確認
- その他乗車前の点検の実施



自転車は車道を走行してください。

・自転車は自動車と同じく車道を通るのが原則です。その場合、道路工事などを除き車道の左端に沿って通行しなければなりません。

●但し、以下の場合に限り歩道を通ることができます。

- ※自転車歩道通行可の標識がある場所。
- ※運転者が幼児、児童、70歳以上のお年寄り、身体障害者の場合。(幼児・児童の保護者はお子様が乗車するときは必ずヘルメットをかぶせるようにしてください。)
- ※道路、交通の状態から見てやむを得ない場合。

警告



衝突や転倒した時には

衝突や転倒をした際は、必ず自転車各部を点検してください。異常がある場合は販売店に相談してください。



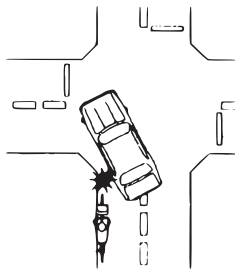
自動車の横を走り過ぎるときは スピードを出さない。

自動車のドアが急に開き衝突の危険性があります。



自動車の左折車に注意

車道の左端を走っている自転車が左折する自動車に巻き込まれる事故がよく起こっています。直進しようとするときは、左折車の動きに十分注意し、道路の左端を走るようにしましょう。トラックやバスの真後ろはバックミラーには入りません。信号で停止するときなど自動車の車線には入らないようにしましょう。



駐輪時の注意

- 駅前や商店街など自転車に乗って行った先で自転車を放置しないようにしましょう。駐輪するときは駐輪所に駐輪しましょう。
- 平坦な場所に停め施錠しましょう。
- 自転車使用後は、ブレーキに手を触れないでください。熱くなっている箇所がありますのでヤケドをする恐れがあります。



警察庁の“自転車安全利用五則”(下記参照)にもまとめられているように、自転車は車道の通行が原則で、歩道は例外とされています。

車道の左端に「普通自転車専用通行帯(自転車レーン)」が設置されている場合は、自転車はここを左側通行で通らなければなりません。自転車レーンは、主に茶色や青色の塗装がされ、白い自転車マークと矢印、「自転車専用」「左側通行」などの表示が施されています。

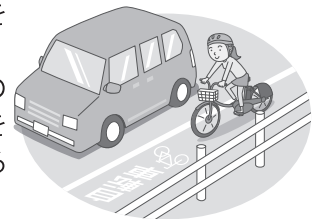
自転車安全利用五則(警察庁)

1. 自転車は、車道が原則、歩道は例外
2. 車道は左側を通行
3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
4. 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライトを点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止
 - ・安全確認
5. 子どもはヘルメットを着用



自転車は道路交通法上「軽車両」であり、自転車の通行については、原則として車道の端を左側通行することが規定されています。ただし、以下の場合には例外として歩道通行ができます。

- ① 道路標識等で通行することができるものとされている場合
- ② 13歳未満の子供や70歳以上の高齢者、身体の不自由な人が普通自転車を運転している場合
- ③ 車道又は交通の状況からみてやむを得ないと認められる場合



①～③の場合、自転車で歩道を通行することができますが、道路交通法では歩道は歩行者優先とされており、自転車は歩道の中央から車道寄りの部分を徐行しなければなりません。そして、「普通自転車の進行が歩行者の通行を妨げることとなるときは、一時停止しなければならない。」とされています。

交通ルールを守りましょう

自転車で道を走る時に必要なルールです。まず、これだけは覚えておきましょう。
小さなお子さまの場合は、保護者の方が付き添いましょう。

